

大規模イベント開催時の危機管理等における消防機関のあり方に関する研究結果の概要

国民保護室

1 はじめに

消防庁では、2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会という国家的、歴史的なイベントの開催に向けて、テロやその他災害等（以下「テロ災害等」という。）の緊急事態へ適切に対処するため、消防機関等がこれから取り組まなければならない課題について、様々な視点から分析し、整理することを目的とした「大規模イベント開催時の危機管理等における消防機関のあり方に関する研究」（以下「本研究」という。）を実施し、平成27年3月に結果をとりまとめました。本稿では、本研究の内容について紹介します。

2 本研究の概要

(1) 本研究の進め方

本研究は、2019年ラグビーワールドカップ及び2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の2つのイベントを想定し、各分野における有識者や関係省庁の職員等からの意見等も聴取しながら、消防庁においてとりまとめました。

研究の具体的な手法としては、地下鉄サリン事件（1995年）やボストンマラソン爆弾テロ事件（2013年）等の過去の事例から教訓や課題等を抜き出すとともに、大規模イベント開催中に爆弾テロやNBCテロ等が発生した際の消防機関等の活動をシミュレーションすることで、実践的な課題の抽出及び対応策の検討を行いました。

(2) テロ災害等の発生時における消防機関の任務

研究内容の説明に入る前に、テロ災害等の発生前後における消防機関の任務及び活動を紹介します。

- ① テロ災害等の発生時における消防の任務
- 避難住民の誘導、救助活動、消火活動、傷病者の搬送 等

② 消防機関のテロ災害等の発生前後の主な活動

1. テロ災害等の発生前
 - ・ 競技実施建築物等の立入検査
 - ・ 医療機関への働きかけ
 - ・ 状況に応じた警戒
2. テロ災害等の発生後
 - ・ 覚知、緊急情報の伝達
 - ・ 避難誘導
 - ・ 検知、ゾーニング
 - ・ 消火活動
 - ・ 傷病者の救助
 - ・ 除染
 - ・ トリアージ、応急救護
 - ・ 傷病者の救急搬送

3 研究結果の内容

本研究では、消防機関等の活動段階毎に「想定される状況と課題」を検討し、課題に対する対応策をまとめました。対応策のうち消防に関するものについては、可能な限り具体的な目標を設定し、工程表としてとりまとめました。以下では、その概要を説明します。

(1) 想定される状況と課題

- ① テロ災害等の発生に備えた警戒体制
 - テロ災害等の発生に備えて、会場等を巡回し、警戒する人員や会場の警戒本部等で待機する人員及び車両、資機材等の確保が必要。
 - テロ災害等の発生時に、近隣の消防署や他の消防本部等から人員や車両、資機材等を速やかに現場へ投入できる体制の構築が必要。
 - 警戒体制の構築にあたり、地元消防本部において人員や車両、資機材等が不足する場合、他の消防本部からの応援等により補うことが必要。
 - この時、警戒体制が国家的な対応が必要となるテロ対策に係るものであること等を踏まえ、国が広域的な調整やその他支援を行うことが必要。

② テロ災害等の覚知、通報

- 警戒にあたる消防職員等は、テロ災害等の発生時に現場に先着し、ファーストレスポnderとなる可能性がある。
- このため、状況に応じてNBCテロの発生を疑い、二次災害に遭わないよう適切な行動を取るための教育が必要。
- 警戒にあたる消防職員等には、携帯可能な防毒マスクや検知器等、最低限必要な装備・資機材等の配備が必要。
- 会場スタッフや大規模集客施設の職員等にも、NBCテロに関する基礎知識を普及させることが必要。

③ 消防活動の開始

- 消防各隊が速やかに現場に到着するために、事案発生後の迅速な交通整理や部隊の集結スペースの確保が必要。
- テロリストの潜伏等が危惧される現場では、警察機関等と緊密に連携し、消防機関や医療チーム等の安全を確保することが必要。

④ 観客等の避難誘導

- 各機関が適切な情報共有の下で避難誘導の方針を統一し、現場の警戒人員が所属機関を問わず一致した避難誘導を実施できる仕組みが必要。

⑤ 検知・ゾーニング

- テロの発生時には、直ちにNBCの検知を実施し、検知結果（NBCの反応が無い場合も含む。）を、医療機関を含めた関係機関間で共有することが必要。
- NBCテロが疑われる場合には、NBC対策隊による検知やゾーニングの結果に基づき、消防隊や救急隊は活動を開始する。このため、NBC対策隊の速やかな現場投入が必要。

⑥ 消火・救助活動

- 爆弾テロの発生時には、爆発により倒壊した建物等における救助活動を行う可能性がある。この場合、建物等の更なる倒壊等による二次災害の危険性への配慮が必要。
- NBCテロの発生時には、汚染地域内での救助活動のため、陽圧式防護衣等の適切な防護措置を施した十分な数のNBC対策隊を投入することが必要。

⑦ NBC災害により汚染された者の除染

- NBCテロの発生時には、汚染された傷病者等に対し、除染テントや大型除染システム等を活用し除染を実施する。
- 汚染された傷病者が多数発生した時には、必要な除染能力を、近隣の消防本部等も含め、速やかに確保することが必要。

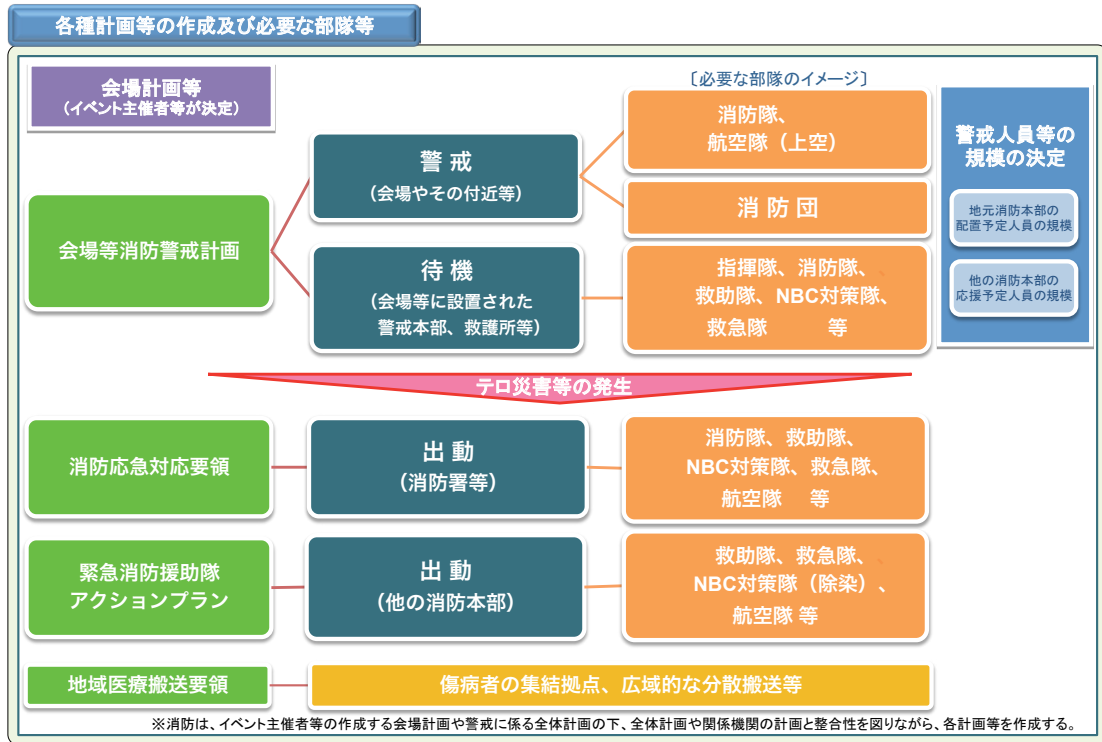
⑧ トリアージ、応急救護から救急搬送、医療機関の収容

- 傷病者は、現場付近の応急救護所等においてトリアージされ、救護・医療提供を受けながら、医療機関への搬送を待つことになるため、会場等に応急救護所の設置スペースや救護用資機材等の確保が必要。
- 傷病者の搬送手段の確保が必要であり、特に、地元の消防本部は計画的に救急車両等の搬送力を増強することが必要。
- 多数傷病者の発生に備えた、医療機関の傷病者の受入れ数の確保が必要。また、NBC災害による傷病者を医療機関において円滑に受け入れるため、事前の調整が必要。

(2) 大規模イベント開催に向けた消防の対応策

① 計画等の作成

- 地元消防本部は、2016年度を目途に、イベント主催者等が作成する会場の警戒に関する全体計画等との整合性を図りながら、消防の応援に係る地元消防本部の配置予定人員の規模及び他の消防本部からの応援予定人員の規模を含めた会場等消防警戒計画を作成する。
- 地元消防本部は、2017年度より、テロ災害等の発生時に備え、災害の規模等に応じた出動部隊数や応援要請の基準、部隊の集結場所等を定めた消防応急対応要領を作成する。
- 消防庁は、2017年度に、テロ災害等の発生時に備え、派遣部隊の規模や部隊編成、進出拠点等を定めたラグビーワールドカップ緊急消防援助隊アクションプラン及びオリンピック・パラリンピック緊急消防援助隊アクションプランを作成する。
- 開催地の都道府県は、2017年度より、関係消防本部及び医療機関等間で調整の上、広域的な分散搬送を含めた、地域医療搬送要領を作成する。



② 人員の確保

- 地元消防本部は、2015年度より、会場等消防警戒計画の調整状況を踏まえ、消防の警戒に係る配置予定人員の規模を決定し、計画的に必要な人員を確保する。
- 地元消防本部の配置予定人員では、必要な人員が不足する場合、2016年度より、他の消防本部からの応援予定人員の規模を決定する。

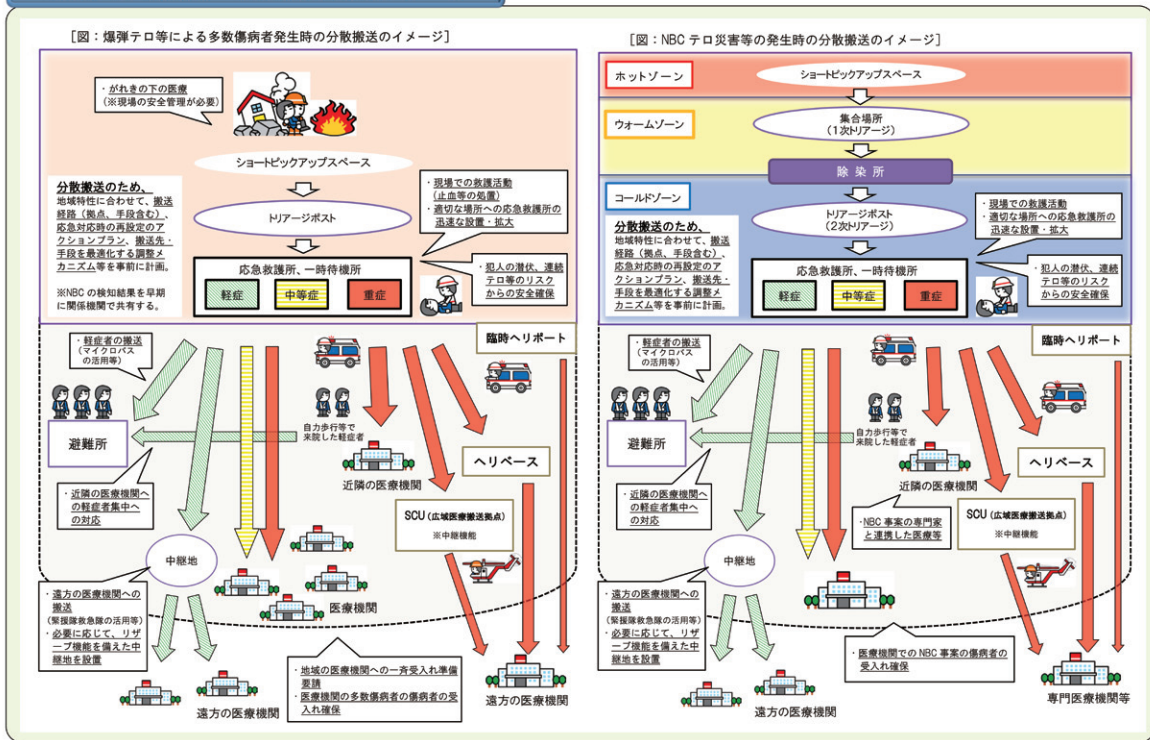
- 消防庁は、他の消防本部からの応援体制の構築にあたり、必要な調整、支援を行う。

③ 車両、資機材等の確保

- 会場等の警戒体制の構築にあたり、会場等の警戒にあたる部隊は、下図のような車両、資機材等を準備する。

各部隊の区分、任務、車両、資機材、教育					
区分	発生前の任務	発生後の任務	必要な車両	必要な資機材等	必要な教育
消防隊	・会場等における警戒(巡回)	○進入統制ライン・消防警戒区域の設定	ポンプ車	○防毒マスク(多用途) (巡回時各自で携帯) ○NBC検知器(携帯型) (巡回する隊ごとに携帯)	○NBCテロ災害等のファーストレスポnderとしての教育
	・会場等の警戒本部に待機 ・消防署等に待機	○観客の避難誘導等 ○救助活動支援 (ショットピッキング後の傷病者をウォームゾーンへ搬送) ○除染支援		—	○レベルB防護服 ○レベルC防護服
消防団	・会場等における警戒(巡回)	○後方支援、避難誘導等	—	○携帯無線機 (巡回時各自で携帯)	○NBCテロ災害等のファーストレスポnderとしての教育 内容を訓練等に反映
航空隊	・上空からの警戒 ・近隣ヘリポート等で待機	○上空からの情報収集 ○傷病者の搬送等	ヘリコプター	○ヘリサット	
指揮隊	・会場等の警戒本部に待機	○情報収集・指揮命令等	指揮隊車	—	
救助隊	・会場等の警戒本部に待機 ・消防署等に待機	○爆弾テロ等に伴うがれきりや破損車両等からの救助活動 ○NBCテロでは救助活動の支援 (ショットピッキング後の傷病者をウォームゾーンへ搬送等)	救助車、工作車	○ウオーターカッター等の切断用資機材 ○救助用支柱資機材 ○探索用高度資機材 (画像探索機、地中音響探知機等)	○必要に応じて、NBCテロ災害等のファーストレスポnderとしての教育
		○検知・同定 ○ゾーニング ○救助活動 (ホットゾーン内のショットピッキング)		NBC災害対策車	○レベルA防護服(陽圧式) ○NBC検知・同定装置
NBC対策隊 (NBC災害専門救助隊)	・会場等の警戒本部に待機 ・消防署等に待機	○救助活動支援 (ショットピッキング後の傷病者をウォームゾーンへ搬送等)	除染車	○レベルA防護服(陽圧式) ○レベルB防護服	○必要に応じて、NBCテロ災害等のファーストレスポnderとしての教育
	・消防署等に待機	○除染		○レベルB防護服 ○レベルC防護服 ○大型除染システム	
救急隊	・会場等の救護所に待機	○傷病者の救護、搬送	救急車、応急救護車	—	

救助から医療機関への分散搬送までのイメージ



④ 研修・訓練等の実施

- 消防庁は、2015年度に、NBC災害の専門部隊に対する教育カリキュラムを検討し、2016年度より、消防大学校において当該カリキュラムを用いた教育訓練を実施するとともに、教育訓練を受けた者に対する認証を行う。
- 消防庁は、2016年度に、警戒にあたる消防職員に対するNBCテロ災害等のファーストレスポンスとしての教育内容を検討し、2017年度より、各消防学校等における教育訓練を実施する。
- 警戒にあたる消防団についても、NBCテロ災害等のファーストレスポンスとなる可能性があるため、2017年度より、各消防学校における訓練等に上記の内容を反映する。
- 消防庁は、2016年度より、会場スタッフや大規模集客施設等の職員に対するNBCテロ災害等の基礎知識について普及啓発資料を作成し、普及を図る。
- 消防庁は、国と地方公共団体が共同で実施するテロ災害等への対処能力向上のための国民保護共同訓練について、大規模イベントの開催団体を中心に実施回数を増やすとともに、内容の充実を図る。

⑤ 関係機関間の連携

- 国は、イベント期間中の警戒体制の水準を関係機関

間の適切な役割分担の下で確保するとともに、警戒本部や合同指揮所等を中心に、関係機関が情報を共有し、連携する仕組みを構築する。

- 多数傷病者やNBC災害により汚染された者の医療機関の受け入れ数について、事前に医療機関等と調整し確保する。

4 おわりに

本研究で見えてきた課題やその対応策については、今後も国際情勢の変化や訓練の積み重ねの中で、不断の分析と改善を図っていくことが必要です。また、これら課題やその対応策には、消防のみでは対応が困難なものが多く含まれています。このため、本研究の内容は、関係機関等へ広く共有を図っていくものと考えています。

本研究の結果は、消防庁のウェブサイトにも掲載しており、ダウンロードも可能です。

本研究の結果が、これから国家的な大規模イベントの開催を迎える我が国において、危機管理のあり方を検討する一助となることを期待しています。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課国民保護室 近藤、安藤
TEL: 03-5253-7550